

初等家庭科教育法の授業課題

家政教育・竹下浩子

1. 授業の概要

本授業は、小学校教科科目の初等家庭科教育法であり、担当教員（藤田昌子准教授、竹下浩子）2名で登録学生数145名であった。15回の授業は、クラスを半数ずつに分けて行った。本報告では、竹下の授業を受講した73名の学生のアンケート調査をもとに報告する。

本授業の目的は、現代の小学校家庭科教育の意義や課題、教育内容、支援方法等を理解し、小学校家庭科における授業実践に必要な基礎的な知識と教育実践力を身につけることであり、関連するディプロマ・ポリシーは「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)」と「教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。(技能・表現)」であった。

授業概要は、初等教育における家庭科の学習支援に関する実践力の基礎を養うために、児童および家庭科教育の実態、児童を取り巻く生活環境の諸課題等を踏まえ、家庭科教育の目標、内容、支援方法、教材研究、授業設計等について解説・検討を行った。

授業は、前半に家庭科教育の目的や意義・目標を確認した。次に家庭科の4領域の内容について授業設計、教材研究をグループ（1グループ3名）ごとに行った。最後にグループごとに10分間の模擬授業を行い、その評価を行った。

今年度、特に意識したことは、1）学生が予習・復習を行うように支援を工夫すること、2）学生全員が、指導案の作成、模擬授業の実施に関わることの二点であった。

1）については、学習指導要領に関する試験問題をグループごとに作成させ、その問題を次の授業時間のはじめに解答させる確認テストを実施した。

2）については、少人数でのグループ活動を行えるように、1グループ3名で24グループを教員側で設定し、各授業でグループ活動の時間を十分に準備した。

2. アンケート結果

アンケート調査の概要は次のとおりである。

調査日 2014年2月6日（木）1限
調査場所 103号室
調査方法 質問紙調査
受講者 学教2回生
回収数（率） 72名（100%）
調査内容

A 学生自身の授業への取り組みについて
（予習・復習の有無、授業への取り組み等）

B 授業について
（進度、わかりやすさ、指導案作成、模擬授業についての有益性等）

A 学生自身の授業への取り組みについて

「シラバスを事前に読んで授業概要を把握していましたか。」「授業には意欲的に取り組みましたか。」という質問に対して、多くの学生が【いいえ】と回答した。

特に予習・復習の有無については、学生が予習・復習を行うための支援として、授業のはじめに確認テストを行っていたにも関わらず、予習・復習を行ったと答えた学生は、3分の1しかいなかった。一方、授業には意欲的に取り組んだと答えた学生は多くいた。

また、出席状況について尋ねたところ、【正当な理由なく欠席・遅刻をした】と答えた学生が14名いた。これは毎授業での出席確認からいえる事であるが、1限目の授業ということで遅刻してくる学生が目立った。

表1. 授業への取り組みについて（72名）

質問項目	はい	いいえ
シラバスを事前に読んで授業概要を把握していましたか。	40人	32人
予習・復習をしましたか。	18人	54人
授業には意欲的に取り組みましたか。	60人	12人
模擬授業へは十分な準備をもって取り組みましたか。	52人	20人

B 授業について

「授業の進行速度は適切でしたか。」について、【いいえ】と回答した学生は5名とすくなくかった。一方、「授業はわかりやすかったですか。」について、【いいえ】と回答した学生は17名おり、比較的多かった。特に、「授業はわかりやすかったですか。」について、【いいえ】と回答した学生のほとんどが、「シラバスを事前に読んで授業概要を把握していましたか。」、「予習・復習をしましたか。」、「授業には意欲的に取り組みましたか。」の質問項目において【いいえ】と回答しており、授業がわかりやすかったかと学生の授業への積極性には相関があった。

模擬授業については、模擬授業の指導案作成、模擬授業の実施、他の模擬授業の見学の全ての質問項目において、大多数の学生が【はい】と回答しており、模擬授業実施への満足度が高かった。

模擬授業について自由記述で尋ねたところ、「今回初めて、指導案作成、模擬授業を行って、その難しさが分かった。」という記述や「実際に授業を行うことで、教材研究の大切さが分かった。」、「これまで教師側になることがなかったので、よい経験になった。」という記述が多く見られた。

表2 授業について (71名※)

質問項目	はい	いいえ
授業の進行速度は適切でしたか。	66人	5人
授業はわかりやすかったですか。	54人	17人
模擬授業の指導案作成はためになりましたか。	69人	2人
模擬授業をやってよかったですか。	70人	1人
他の人の模擬授業はためになりましたか。	70人	1人

※1名無回答

最後に、本授業の改善点を自由記述で尋ねたところ、「模擬授業について先生のアドバイスや改善点をもっと聞きたかった。」、「指導案を添削してほしいかった。」、「模擬授業をする機会があったことが良かった。」という回答が数名あった。

3. 総括

アンケート調査の結果から、今年度、特に意識したことを踏まえて、次の三点について考察する。

1) 学生が予習・復習を行う支援の工夫

本授業では、学生の予習・復習を促すために確認テストを実施した。しかし、多くの学生が予習・復習を行っていなかった。この現状は、アンケート調査の結果、確認テストの点数からも読み取れ、予習・復習をする学生としない学生の差が大きかった。また、予習・復習をしない学生は、授業の進度や理解度が低く、授業が受け身になっている場合が多かった。このため、来年度は授業初回のガイダンスにおいて、予習・復習を行うように具体的なやり方を示す必要がある。

2) 模擬授業の実施

本授業の中で全員に学習指導要領を作成させ、模擬授業をおこなわせることについては、当初不安を感じていた。しかし、アンケート調査からほとんどの学生が模擬授業で多くのことを学ぶことができ、他人の模擬授業が参考になったと満足していることが分かった。このことは、実際の授業からも感じ取ることができ、模擬授業の計画、実施を通して学生の成長が伺えた。したがって、今後もこのような機会を与えたいと考える。一方でいくつかの課題もあげられる。アンケートの自由記述にあった、教員のフィードバックについてである。今年度は、学生同士が互いの授業を指摘することに重点をおき、模擬授業の後は、学生の質疑応答の時間を設けた。時間的な制約がある中で、学生同士の評価と教員の評価の時間をどうとるのが課題である。

3) その他

本授業は受講者72名と多いため、学生の学習能力、意欲にとっても差があった。そのため、他学科、他コースをまたがるグループを編成し、グループ活動をおこなったことにより、自分と他人との授業への取り組み方を比較することができ、客観的に現在の自分の学習到達レベルをすることができたと考えられる。来年度もこのようなグループ活動を充実させ、学生同士が学びあう学習の構築を目指したい。